

教職支援室便り (9月号)

令和2年 9月 11日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

夏季勉強会終わる



先月号にも掲載しました「夏季勉強会」が、終わりました。7月20日から始まり、5週間にわたって、教員採用試験（二次試験）対策に取り組みました。

取り組んだ内容としては、自己申告書・調査書・PR書等の作成、小論演習、個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業演習など、多岐にわたるものでした。その中で、夏季勉強会95コマ（1コマ90分）を支えていたのは、学生の皆さんの主体的な取組でした。学生の皆さんが週ごとに計画を立て、私への支援要望を明確に伝えてくれました。私も、95コマの時間を共有する中で、多岐にわたる支援内容に、計画的に取り組むことができました。（次頁に、実施した週計画として、第2週分を載せています。）

また、様々な感動を味わうこともできました。学生の皆さんの中から、「教職について、いろいろなことを学ぶことができ、とても楽しいです。」「自己申告書を作成してみて、改めて自分のこれまでを見直すことができました。二次試験に向けて、力が湧いてきました。」などの声を聞かされた時に、私自身のエネルギーになり、勉強会へのモチベーションも高まりました。やはり、勉強会の目的は、採用試験に合格するためだけではなく、学生の皆さんが自分たちの力で、大切なものを育てていると感じました。ゆえに、勉強会は単なる勉強会ではなく、大切な教職課程の授業に準ずるものであると考えます。二次試験においても、多くの皆さんの合格を祈っていますが、それとともに、合否に関係なく、更に人間力を向上させた皆さんを讃えたいです。

なお、一次試験の合格者（4年生）は、小学校4名、中学校英語9名、計13名、合格率87%です。また、既卒生については、小学校2名、中学校英語3名、高等学校英語1名、計6名です。（既卒生は把握分のみです。）

【宮崎県の教員採用試験（二次試験）について】

宮崎県の教員採用試験（二次試験）の日程、内容が、コロナウイルス対策のために、次のように変更になりました。

- 試験日は、令和2年9月20日（日曜日）から10月11日（日曜日）のうち、原則として、指定された1日とする。
- 「集団討論」は実施せず、「個人面接」、「模擬授業」、「適性検査」を実施する。
「集団討論」が実施されないことは残念ですが、現在は、「個人面接」、「模擬授業」に関する9月勉強会を行っています。学生の皆さんのニーズに応えられるように、最後までしっかりと支援していきたいと思います。

【週計画表（第2週）】

時限	7月27日	28日	29日	30日	31日
	月	火	水	木	金
1	事前準備 小・模擬授業	事前準備 面接演習 中・模擬授業	事前準備 中・模擬授業	事前準備 小・模擬授業	事前準備 面接演習 中・模擬授業
2	集団討論 全体会	集団討論 全体会	小・模擬授業	集団討論 全体会	集団討論 全体会
3	中・模擬授業		集団討論	中・模擬授業	小・模擬授業
4	個別支援 Aさん Bさん Cさん	個別支援 Dさん Bさん Eさん	面接演習	個別支援 Aさん Cさん Bさん	個別支援 Fさん Bさん Dさん
5	Bさん	Cさん Dさん	個別支援 Fさん Bさん	Dさん	

《二次試験を受験しての報告》

8月下旬に、学生の皆さんから、試験終了の連絡をもらいました。受験しての手ごたえ、不安に思ったことなど、様々な思いが報告されましたが、共通して聞かれた言葉は、「やり切った」という言葉です。「採用試験に向けて、約1年勉強会に打ち込んできた。」という実感から、出てきた言葉だと思います。

学生の皆さんは、これまでの勉強会や緊張感の中での受験で、疲れもピークに達しているのではないかと思います。ゆっくり休んでほしいです。

【学生の方からのメール】

無事に二次試験が終わりました。試験の感想としては、まずはやり切ったなあと感じています。面接でも、模擬授業でも、先生や教職の皆の顔が思い浮かんできて、落ち着いて取り組みました。面接では、先生と練習したものがたくさん出てきて、心の中でガッツポーズをしながら答えることができました。面接官も話しやすい方々で、自分の思いを精一杯伝えることができましたと思います。英語の面接では、質問と答えが合っていないことも、あったのかもしれないのですが、とにかく話し続けることを意識して、英語力は伝えられたと思います。全体的には、自分の経験や思いを、落ち着いてゆっくり伝えられたのかなと思います。

《二次試験での面接試問内容》

下欄に、学生の皆さんから報告を受けた面接試問の一部を紹介しています。下記以外の試問も含めて、ほとんど演習で取り組んだ試問であったことから、次年度に向けて、更に演習資料の充実につなげていきたいと思えます。

- ボランティアをしたきっかけは何ですか。どんなことを学びましたか。
- 指導できる部活動は何ですか。
- 自己の能力を伸ばすために、取り組んでいることは何ですか。
- なぜ、体罰はいけないのでしょうか。
- 地方公務員法にある「サービスの根本基準」とは何ですか。
- 身分上の義務を述べなさい。
- 本県を受験した理由は何ですか。
- 英語の楽しさをどのように伝えますか。
- 不登校生徒にどのように対応しますか。家庭訪問を断られたらどうしますか。
- 教員志望の理由は何ですか。
- コミュニケーションをとるときに、大切にしていることは何ですか。
- ストレス解消法は何ですか。

《自己申告書等の重要性》

本年度も、自己申告書・調査書・PR書等の重要性を感じています。これらは、二次試験の面接試験において活用される資料ですが、上記の試問以上に、時間が多く充てられるなど、重要な意味をもつものです。学生の皆さんのアピールポイントが、指定されたスペースの中で、十分に表現されるよう支援することが重要です。また、学生の皆さんの思いが伝わるものでなければなりません。「作文」で終わってはいけないということです。本年度は、下記の課題に関する記述が求められましたが、学生の皆さんは、体験等を踏まえ、厚く、熱く、深いものをつくりあげたと思っています。



- 自己PR
- 教員として取り組みたいこと
- 目標達成に向けて取り組んだこと
- 教員を志望した動機及び本県を志望した理由
- 教員にとって一番大切だと思うもの及びその理由
- 学校で生かせると思う得意分野やPRしたいこれまでの経験
- これまでの経験で苦労したことや失敗したこと
- 失敗した経験を踏まえて学んだことや心がけていること
- これまでに行った主たるボランティア活動
- 教員としての適性
- 保護者や地域の信頼を得るための取組
- 生徒の可能性を伸ばす実践
- 命の大切さをどのような場で、どのように指導するかについて
- 部活動、社会奉仕活動等での成果と教員としての生かし方
- 子どもと接した経験とそこから学んだこと

道徳の教科化に思う！（シリーズその40）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について掲載しています。今回は、「教材・足袋の季節・指導資料その2」として、発問構成等についてまとめました。本教材については、令和2年2月号で資料を掲載しましたが、今回は、更に詳しく発問構成等を整理しました。

1 教材名「足袋の季節」

2 対象学年 中学校2・3年生

3 内容項目D－（22）「生きる喜び」

4 教材内容（概略）

主人公は、冬の寒さが厳しい小樽で郵便局の給仕をしていたが、足袋を買う余裕もなく生活していた。そんなある日、上役の言い付けで、十銭玉を持って大福餅を買いに行く。そのとき、大福餅を売るおばあさんは、主人公が十銭玉を渡したにもかかわらず、「五十銭玉だったね？」と聞く。主人公は、おつりで足袋が買えるという考えがひらめき、思わず「うん。」と言って四十銭を受け取る。

その後、主人公は自責の念などで胸を苦しめていたが、札幌局に採用になり初月給をもらおうと、すぐに果物籠を手におばあさんの所へ行く。しかし、おばあさんは亡くなっていた。

5 発問構成例（展開前段） ○・・・期待する生徒の反応 ◇・・・指導上の留意点

Q1. おばあさんの「五十銭玉だったね？」の言葉に、思わず「うん。」と答えたとき、また「踏ん張りなさいよ。」と四十銭を握らせてくれたとき、主人公はどんな気持ちだったでしょう。

○ 「五十銭玉だったね？」に一瞬戸惑ったが、とっさに「うん。」と言ってしまった。

○ よし、これで足袋が買えるぞ。よかった。

○ 何が何だかわからないうちに、四十銭を握りしめていた。

◇ 展開前段の発問に入る前に、導入では、板書を活用して時代背景、小樽の位置及び気象環境、足袋などについておさえておくようにする。

◇ この場面において、軽々に「あなたならどうするか。」と発問しないようにする。主人公と生徒との間に大きな環境の違いがあることを考慮する。また、上記の反応が予想されるが、あまり時間をかけず、ポイントとなる次の補助発問につなげるようにする。

補～人には、そのような弱さがあるのでしょうか。

○ あると思う。自分がかわいい気持ちがある。

○ だれでも、最初に自分のことを考えてしまうところはあると思う。

○ 主人公のことを考えると、当然だと思う。

○ 弱さはみんなにあるが、人によってその違いはあると思う。

◇ 「人間理解」として、「人間としての弱さ」は、主人公だけの弱さではなく、すべての人間に共通して持っているものであることを、生徒に気付かせることが重要である。人はだれしも弱さをもっているが、それを乗り越える（乗り越えようとする）強さもあることに気付く布石となる発問である。

◇ 教師は、生徒に対して共感的な傾聴の姿勢で臨む。

補～それでよいのでしょうか。

○ それではいけないのかもしれないが、どうしようもない。

- 人には弱さもあるが、強さもあると思う。
- ◇ わかってはいるが、そうできない弱さについて話し合う中で、人にはそれを乗り越えようとする強さもあることに気付かせる。また、「他者理解」として、弱さにも考え方、感じ方が一つではなく多様であることに気付かせる。

Q 2. その後の主人公は、日夜胸を苦しめたとありますが、心の中には、どんな思いがあったのでしょうか。

- どうして四十銭を受け取ったのか。自分はどうしようもない人間だ。
- 今頃、おばあさんはどうしているだろう。

補～おばあさんのどんな姿が、頭に浮かんできたのでしょうか。

- 前かがみに寒そうに座っている姿。
- 疲れている声が聞こえてきそう。
- 体をこわしていないだろうか。
- ◇ 主人公の頭に、日夜映像として浮かんでくるおばあさんの姿を問う中で、表情、声、姿勢などを多面的・多角的に考えさせるようにし、深い自責の念があることを話し合う。

補～そこまで、自分を責めなくてもいいのではないですか。

- どうしても自分を責めずにはいられなかったと思う。
- もう自分をせめなくてもいいと思う。
- ◇ 主人公を弁護する問いかけをすることにより、主人公への共感を更に促し、その人間性のよさを認め、徐々に「ねらい」に迫っていくようにする。

Q 3. 流れていくかごを見ている、主人公の心の中には、どんな気持ちが込み上げていたのでしょうか。(そこまで泣かなくもいいのではないですか。もう罪を償うくらい自分を責めてきたのだから。)

- おばあさんに会って謝りたかった。
- おばあさんはもういない。どうすればいいのか。
- ◇ おばあさんの存在がなくなったことに、どうしようもできない現実（自分の罪を償えない現実）を受け止めきれない主人公を捉えさせる。また、教師は「そこまで泣かなくもよいのではないですか。もう罪を償うくらい自分を責めてきたのだから。」とつぶやき、主人公の人間性のよさを生徒に感じ取らせたい。

補～おばあさんは、どんな心をもっていた人だったのでしょうか。

- 他の人のことを思いやれる人。
- 自分が困っていても、他の人のことを考えられる人。
- 心の温かい人。
- 心のきれいな人。
- 人としての強さをもっている人。

補～主人公は、どんな心をもっていた人だったのでしょうか。

- 自分の弱さをわかっていて、それを乗り越えようとした人。
- とてものことを考える人。
- 自分の弱さを素直に認め、それを直そうとする人。
- ◇ おばあさんと主人公の人間性のよさを踏まえた上で、おばあさんの生き方が主人公の生き方に影響を与えたことを捉えさせ、人には人としての弱さや醜さがあるが、それを乗り越えようとする強さや気高さもあることを話し合い、ねらいとする価値を把握させる。